

烏龍茶 黄金桂を飲用することにより
通年性鼻炎およびスギ花粉症の症状が緩和されることを確認

8月20日（土）21日（日）開催の「和漢医薬学会」にて発表

株式会社伊藤園中央研究所（静岡県榛原郡）は、「アレルギー諸症状緩和と茶の研究」において、烏龍茶 黄金桂を飲用することにより、通年性鼻炎の症状緩和が期待されること、さらには、スギ花粉症の諸症状の緩和に対する有効性を確認いたしました。この研究の成果は、平成17年8月20日（土）、21日（日）に開催される「第22回和漢医薬学会大会」（東京都品川区立総合区民会館「きゅりあん」）にて発表いたします。その骨子は以下のとおりです。

《経緯》

烏龍茶にはエピガロカテキンガレートなど複数のカテキンが多く含まれており、抗アレルギー作用・抗炎症作用があることを、ラットを用いた研究などにより確認しております。また、ラットを用いた試験により、烏龍茶 黄金桂（※）に強い抗アレルギー効果があることも確認しております。

そこで今回は、ヒトにおいて、くしゃみ、鼻つまり、目のかゆみなどのアレルギー症状を有する通年性鼻炎の症状緩和に対する烏龍茶 黄金桂の効果を検討しました。

さらに、いわゆるスギ花粉症患者を対象に、烏龍茶 黄金桂のスギ花粉症の諸症状緩和に対する有効性について検討しました。

（※）「黄金桂（おうごんけい）」

黄旦（おうたん）と呼ばれる品種の別称です。黄金色に輝く水色（すいしょく）と、クセのない軽やかな味わいが特徴で、口の中にふんわりと残るキンモクセイ（中国では桂花と呼ばれます）の花を思わせる香りを楽しむことができます。

中国政府がその優良な品質を認めた烏龍茶であり、上級の黄金桂は大変貴重で中国国内でも非常に高く評価されており、「中国銘茶」とされています。

通年性鼻炎の症状緩和に対する烏龍茶 黄金桂の有効性

《試験方法》

比較的軽度のくしゃみ、鼻水、鼻つまりなどの複数の症状があり、ハウスダストの抗体試験において陽性反応を示し、かつ鼻アレルギー診断検査である鼻誘発反応試験もしくは鼻汁中抗酸球検査に対してどちらか一方でも陽性反応を示したヒト20名（男性19名、女性1名）を対象としました。

試験は烏龍茶 黄金桂の飲料350mlを1日2本、2週間連続摂取し、アレルギー専門の耳鼻科医の定期的な診察を行い、自覚症状、問診、身体測定、血液検査および尿検査の各項目について検討しました。また、摂取期間中のくしゃみ、鼻水、鼻つまり、涙目、目のかゆみ、頭重感、嗅覚異常などの自覚症状および日常生活の支障度の変化について調査しました。

《研究結果》

烏龍茶 黄金桂の連続摂取により、医師の診察において鼻症状（くしゃみ、鼻水、鼻つまり）が改善することが明らかとなりました。

自覚症状では、鼻症状（くしゃみ、鼻水、鼻つまり）のすべての項目において改善が認められました。また、目に関する症状では、涙目、目のかゆみが高値の改善率を示し、特に目に対しての有効性が示唆されました。また、日常生活の支障度も改善されました。

以上の結果から、烏龍茶 黄金桂を日常的に飲料水として摂取することにより、比較的軽度のくしゃみ、鼻つまり、目のかゆみなどのアレルギー症状を有する通年性鼻炎の症状緩和に対して、効果が期待できることが示唆されました。

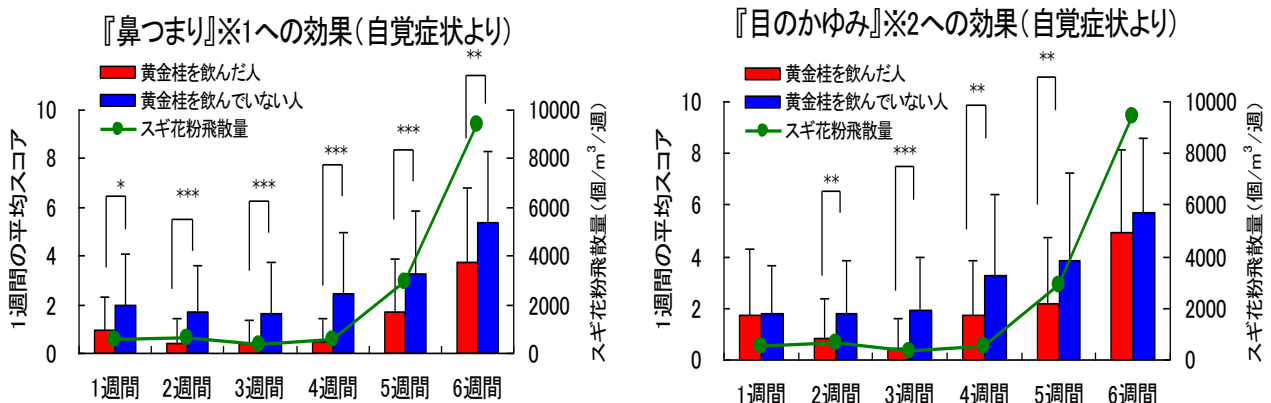
スギ花粉症の諸症状に対する烏龍茶 黄金桂の効果検証

《試験方法》

試験は2005年2月3日から3月16日までの6週間、東京近郊に在住し、比較的軽度のスギ花粉症状を有する成人18名（男性11名、女性7名）を対象に行いました。試験群9名、対照群9名にわけ、試験群は烏龍茶 黄金桂の飲料250mlを1日3本、対照群は試験群の10分の1濃度の飲料を同量、それぞれ中身の見えない容器に入れたもので、二重盲検化（試験対象者も医師側もどちらの飲料なのかを知らない状態）して試験を行いました。試験期間中、スギ花粉症の症状が耐えがなくなった場合には、医師の確認のもとにレスキュー薬（点眼薬、内服薬）の使用を許可しました。

6週間連続して摂取し、1週間ごとに自覚症状、問診、身体測定、血液検査および尿検査の各項目について検討しました。また、くしゃみ、鼻水、鼻つまり、涙目、目のかゆみ、頭重感、嗅覚異常などの自覚症状および日常生活の支障度の変化についても検討しました。

《研究結果》



9人の平均値（1週間のデータ）±標準偏差

有意差あり（* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$ ）

薬を使用した場合は加点了

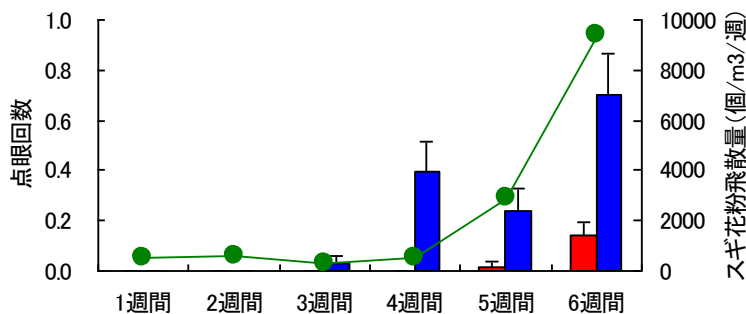
※1 鼻つまり：鼻水の回数を朝、昼、夕にわけて症状日誌に記入し、合計したものを1日の症状としました

※2 目のかゆみ：朝、昼、夕それぞれ4段階で症状日誌に記入し、合計したものを1日の症状としました

（3：たびたび目を擦る，2：時に目を擦る，1：目を擦るほどではない，0：症状なし）

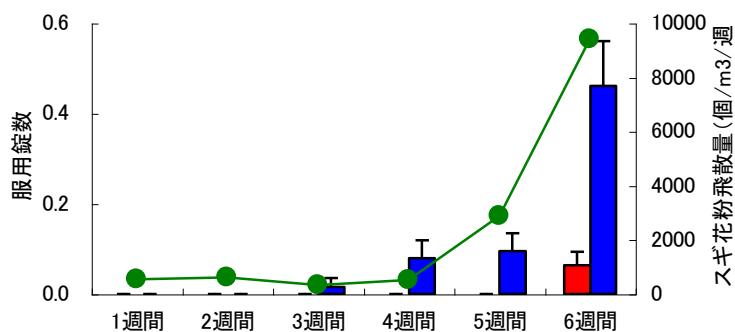
薬の使用頻度

『点眼薬』



■ 黄金桂を飲んだ人 ■ 黄金桂を飲んでいない人 ● スギ花粉飛散量

『内服薬』



■ 黄金桂を飲んだ人 ■ 黄金桂を飲んでいない人 ● スギ花粉飛散量

9人の平均値 (1週間のデータ) ±標準誤差

薬は症状が激しく日常生活に支障をきたす場合に服用を許可しました

試験期間中のスギ花粉は3週間目から飛散が開始し、5週間目以降は例年にない多くの花粉が飛散しました。

烏龍茶 黄金桂を摂取することにより、主たる症状である鼻症状（くしゃみ、鼻水、鼻つまり）、目の症状（目のかゆみ、涙目）および生活の支障度について、対照群と比較して有意な差が見られました。薬の使用頻度は対照群に多くみられ、烏龍茶 黄金桂を飲用している群では使用頻度が少ない結果になりました。

以上の結果から、スギ花粉症において、烏龍茶 黄金桂を日常的に摂取することにより、アレルギー症状の緩和およびスギ花粉症の最発症期における抗アレルギー剤の減量に対して効果が期待できることが示唆されました。

当社はお茶を中心とした食品を通じ、幅広く美容や健康との関連について研究を進めております。未知の可能性を秘めているさまざまな有効成分の研究とともに、その活用方法について、今後も提案し続けてまいります。